

山 岳

題 字 山 岳 連 盟

一九七八年ダウラギリ山峰 遠征によせて



隊長 田中成幸

私達が、今回のヒマラヤ遠征の計画を始めたのは、一九七五年の秋からである。当初、カラコルムのバインター・ブラックの周辺に偵察隊を送り、その計画を進めようとしていた。しかしこの山域の経験者が未だ少ないと云いことや費用がかかりすぎることなどから私達は、これを断念して、近々解禁されるだろうとの情報伝えられていた、ギヤチュンカン峰に目標を変更していった。ただちに、南西稜よりダイレクトに頂上に至る、未登のルートが計画され、時期を一九七八年秋と定めて、岳連の理事会及び総会の承認を得るに及んで、ここに正式の群馬県ヒマラヤ登山隊が発足することになったのである。以後、計画は着々とすすめられていったのであるが、ネパール政府の登山許可はいっこうにおらず、一九七七年十月、私と高崎勉の両名は、偵察行をも兼ねて、ギヤチュンカン峰解禁の見通しの有無と、登山許可の諸否とを、直接たしかめるべく、ネパールへと向ったのである。

達に再度目標の山の変更を迫る、きびしい回答であった。しかも、ネパール政府内務省は、当分の間ギヤチュンカン解禁は考えていないと云う、正式な文書を添えての決定的な宣告であった。

十一月十日、私達二人は、ダウラギリ山峰を偵察するために、ボカラよりキヤラバンをはじめこの次に四二〇〇米の南東稜のゴルを越えて、カリガンタキ河底まで下り、そこより南東稜東側の偵察のため五二〇〇米まで試登した。

偵察の結果は、卒直に云って樂觀的なものではない。私達が選んだ南東稜は、過去、フランス隊が一回試登し、アメリカ隊が二度攻撃したが、それぞれ長い岩稜と、氷のナイフツチの連続で失敗している。未だ人をよせつけたことのない、きびしく重苦しいルートである。しかし私達は、この目で出来得る限り冷静に、謙虚に確かめ、分析し、その成功の可能なことを確信して、帰って来たのである。県岳人のこれまでの経験と日本人独特の粘り強さを持つてすれば、登頂は不可能ではないと考える。

今回の遠征隊は、隊長、ドクタ

達に再度目標の山の変更を迫る、きびしい回答であった。しかも、ネパール政府内務省は、当分の間ギヤチュンカン解禁は考えていないと云う、正式な文書を添えての決定的な宣告であった。

十一月十日、私達二人は、ダウラギリ山峰を偵察するために、ボカラよりキヤラバンをはじめこの次に四二〇〇米の南東稜のゴルを越えて、カリガンタキ河底まで下り、そこより南東稜東側の偵察のため五二〇〇米まで試登した。

偵察の結果は、卒直に云って樂觀的なものではない。私達が選んだ南東稜は、過去、フランス隊が一回試登し、アメリカ隊が二度攻撃したが、それぞれ長い岩稜と、氷のナイフツチの連続で失敗している。未だ人をよせつけたことのない、きびしく重苦しいルートである。しかし私達は、この目で出来得る限り冷静に、謙虚に確かめ、分析し、その成功の可能なことを確信して、帰って来たのである。県岳人のこれまでの経験と日本人独特の粘り強さを持つてすれば、登頂は不可能ではないと考える。

今回の遠征隊は、隊長、ドクタ

達に再度目標の山の変更を迫る、きびしい回答であった。しかも、ネパール政府内務省は、当分の間ギヤチュンカン解禁は考えていないと云う、正式な文書を添えての決定的な宣告であった。

達に再度目標の山の変更を迫る、きびしい回答であった。しかも、ネパール政府内務省は、当分の間ギヤチュンカン解禁は考えていないと云う、正式な文書を添えての決定的な宣告であった。

十一月十日、私達二人は、ダウラギリ山峰を偵察するために、ボカラよりキヤラバンをはじめこの次に四二〇〇米の南東稜のゴルを越えて、カリガンタキ河底まで下り、そこより南東稜東側の偵察のため五二〇〇米まで試登した。

偵察の結果は、卒直に云って樂觀的なものではない。私達が選んだ南東稜は、過去、フランス隊が一回試登し、アメリカ隊が二度攻撃したが、それぞれ長い岩稜と、氷のナイフツチの連続で失敗している。未だ人をよせつけたことのない、きびしく重苦しいルートである。しかし私達は、この目で出来得る限り冷静に、謙虚に確かめ、分析し、その成功の可能なことを確信して、帰って来たのである。県岳人のこれまでの経験と日本人独特の粘り強さを持つてすれば、登頂は不可能ではないと考える。

今回の遠征隊は、隊長、ドクタ

達に再度目標の山の変更を迫る、きびしい回答であった。しかも、ネパール政府内務省は、当分の間ギヤチュンカン解禁は考えていないと云う、正式な文書を添えての決定的な宣告であった。

達に再度目標の山の変更を迫る、きびしい回答であった。しかも、ネパール政府内務省は、当分の間ギヤチュンカン解禁は考えていないと云う、正式な文書を添えての決定的な宣告であった。

十一月十日、私達二人は、ダウラギリ山峰を偵察するために、ボカラよりキヤラバンをはじめこの次に四二〇〇米の南東稜のゴルを越えて、カリガンタキ河底まで下り、そこより南東稜東側の偵察のため五二〇〇米まで試登した。

偵察の結果は、卒直に云って樂觀的なものではない。私達が選んだ南東稜は、過去、フランス隊が一回試登し、アメリカ隊が二度攻撃したが、それぞれ長い岩稜と、氷のナイフツチの連続で失敗している。未だ人をよせつけたことのない、きびしく重苦しいルートである。しかし私達は、この目で出来得る限り冷静に、謙虚に確かめ、分析し、その成功の可能なことを確信して、帰って来たのである。県岳人のこれまでの経験と日本人独特の粘り強さを持つてすれば、登頂は不可能ではないと考える。

今回の遠征隊は、隊長、ドクタ

達に再度目標の山の変更を迫る、きびしい回答であった。しかも、ネパール政府内務省は、当分の間ギヤチュンカン解禁は考えていないと云う、正式な文書を添えての決定的な宣告であった。

達に再度目標の山の変更を迫る、きびしい回答であった。しかも、ネパール政府内務省は、当分の間ギヤチュンカン解禁は考えていないと云う、正式な文書を添えての決定的な宣告であった。

十一月十日、私達二人は、ダウラギリ山峰を偵察するために、ボカラよりキヤラバンをはじめこの次に四二〇〇米の南東稜のゴルを越えて、カリガンタキ河底まで下り、そこより南東稜東側の偵察のため五二〇〇米まで試登した。

偵察の結果は、卒直に云って樂觀的なものではない。私達が選んだ南東稜は、過去、フランス隊が一回試登し、アメリカ隊が二度攻撃したが、それぞれ長い岩稜と、氷のナイフツチの連続で失敗している。未だ人をよせつけたことのない、きびしく重苦しいルートである。しかし私達は、この目で出来得る限り冷静に、謙虚に確かめ、分析し、その成功の可能なことを確信して、帰って来たのである。県岳人のこれまでの経験と日本人独特の粘り強さを持つてすれば、登頂は不可能ではないと考える。

今回の遠征隊は、隊長、ドクタ

達に再度目標の山の変更を迫る、きびしい回答であった。しかも、ネパール政府内務省は、当分の間ギヤチュンカン解禁は考えていないと云う、正式な文書を添えての決定的な宣告であった。

こんな気がして、無性にそれおそろしくさえるのだ。そしていっそ、ひらきなおってしまつて、残る私の余力を腕籠かき作業にうちこんでやろうと思うのである。また、偵察の際に逢った、今秋同じダウラギリ山峰を狙っているフランス隊隊長ボレン・ヒラー氏の顔を、時々脳裏をかすめ、強く闘志をかきたてられるのである。

ダウラギリ山峰遠征隊員決まる

公募者全員参加

登山隊員については、実行委員会の選考委員会において、検討されてきたが、去る三月二十四日の実行委員会にて承認されました。

隊員は、ダウラギリ山峰について、種々研究してきた海外登山研究会員の希望者と、一般会員からの公募による隊員により編成され分担任の様に決まりました。

尚、総指揮は再び、浜名会長が当り、ゼネラル・マネージャーとして上毛新聞社長、佐島俊一氏が後援者の立場で参加します。

医師 関 章司 東大山の会 Z・M 佐島 俊一 上毛新聞社 遠征隊資金集めに協力下さい

私達の仲間十八名の遠征隊員が七月末出発を目ざして準備を進めていますが、一番ヤカい資金集めの物品の販売で補うべく実行委員会が努力を致しております。販売の一部利益を資金に当てるべく次の物品の販売をしていますので御協力下さい。

一、ネパールバック
二、ワッペン、パッチ 他
三、「私のヒマラヤ」今井通子「K2登頂 幸運と友情の山」 広島三郎

- | | | |
|--------|--------|-----|
| 総指揮 | 浜名 一雄 | 倉 淵 |
| 隊長 | 田中 成幸 | 登高会 |
| 副隊長 | 小暮 勝義 | 境 |
| 登攀リーダー | 八木原 啓明 | ミヤマ |
| | 宮崎 勉 | ミヤマ |
| | 深沢 勇一郎 | 大間々 |
| | 阿部 源 | 登高会 |
| | 石川 忍 | 大間々 |
| | 宇部 明 | 登高会 |
| | 明 鵬 | 登高会 |



今高崎方面から北西の方向を眺めると、白く雪をかぶった浅間山と黒々と横たわる榛名山塊とのあいだをうめるあたりに、や、急峻な山波がある。これが烏川の上流を囲む倉渕の山々である。

角落古火山に成因するこれらの山々は、烏川の侵食によって複雑な地形を構成している。それらの中からいくつかの山を紹介して見ると

一、角落山(一、三八二米)

円錐型の山容と切り立った断崖原生林等標高の割りに秘境性があり、昨年自然環境保全地域として指定されている。山頂には角落大権現(大山祇神)の社があり、剣ヶ峯とトドメの頭にそれぞれ里宮がある。

登山道は、霧積から十六曲峠、

かくされた山⑨

倉渕の山

倉渕山岳会

剣ヶ峯・赤沢コリー女坂・山頂、二時間半から三時間。倉渕月並よりは高芝を経て白沢・男坂・山頂は約三時間半のコースである。

この外バリエーションルートとして、角落東壁(相間川の流れ)北倉沢(白沢支流)、北稜等がある。

二、鼻曲山(一、六五四米)

碓氷峠から県境尾根を北に約六km登った所に鼻曲山がある。六里が原から見ると、などかな牧歌的な山だが倉渕側は深く切れ込んでおり、烏川の源流をかかえている。

コースは、長日向より一時間四十分である。碓氷峠見晴台より三時間半、二度上峠より二時間半の行程である。

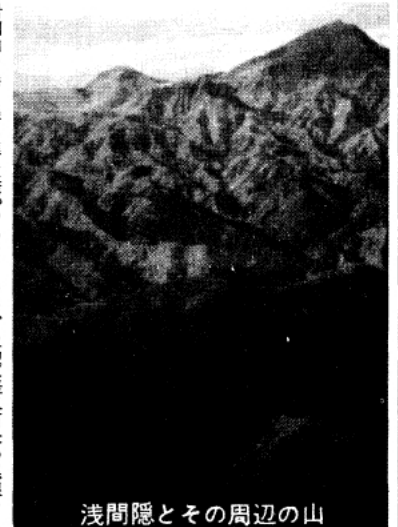
三、浅間隠山(二、七五六・六米)

県道高崎・北軽井沢線が二度上峠をこえる付近の右手にピラミッド型にそびえる山が浅間隠山である。訪れる人も少なく静かな山行が愉しめる。

山頂の展望は、すばらしく、眼下に浅間高原が広がり、浅間を初め四阿山、白根、横手、白砂、上越連山、榛名、赤城、日光連山、八ヶ岳、北アルプス等三百六十度の展望台である。

登山コースは、二度上峠から約六百米、倉渕側に入って県道が大きく曲って小沢を越える所に浅間隠登山道入口がある。

ここは、間屋場と云われる所で道下に良質の湧水がある。ここから北に窪地を登りつめると岩渕山と安高山のコルに出る。ここから



浅間隠とその周辺の山

岩渕山を巻く様に進み基部のあたりで右に折れ、や、下りきみに進めば浅間隠西南稜の登山道に通ずる。ドウゲンツツジ、三ツ葉ツツジの茂る急な尾根を登りつめると南峰に達し、そこから上は、草原状のなだらかな登りで山頂に着く。タイムは一時間四十分。

ここから北の斜面を下り、シヤクナゲ尾根から温川沿いの林道へ出れば約三時間半で薬師温泉にいたるコースがある。

浅間隠は、この外に南面の銅青沢をつめればモンボロ岩等の奇岩があるがコースが荒れている。

この外に吾妻郡界には、浅間隠の東約3kmに龍ヶ岳(一、四一〇・五)さらに笠懸山(一、四四四)に紹介してみたいが登山道の整備が不十分なコースが多いので地図と磁石リテラは必ず装備に加え、テーパーバックでかさりのない気軽な山行を愉しんで下さい。

ここから高度差二百米の尾根を八百里程登りつめればそこが龍ヶ岳山頂である。山頂は平坦な尾根でつながる二つのピークがあり、郡界稜線は東のピークを越えて北よりに下降し、(二五〇)のコルを経る。高崎山岳会の紹介で岳連の仲間入りをさせていただきまし

ながら県道高崎中之条線の大沢峠に向って約10kmに亘って続いているが踏跡は左右に別れコースとして不鮮明な箇所が多い。笠懸山山頂からは南にのびる尾根をたどって高度を下げれば約一時間半たらずで月並のバス終点に降ることが出来る。

以上倉渕の山のいくつかを簡単に紹介してみたが登山道の整備が不十分なコースが多いので地図と磁石リテラは必ず装備に加え、テーパーバックでかさりのない気軽な山行を愉しんで下さい。

山岳会紹介

人口六千余の山間の小さな村に山を愛する少数の仲間が集まって倉渕山岳会が発足したのは昭和三十

十二年の四月初めのことでした。当時、榛名高校倉渕分校に赴任していた小林三雄先生が松井田高に転任されることとなり、その送別の席上、山仲間が意気投合、浜名会長の発案で山岳会を造って岳連へ加入しもっと多くの仲間となしかな山登りを学ばうと云うことになりました。

その頃の倉渕村は、林業が栄え村民の多くが山を生活の場として考えていましたが自然の美しさや厳しさに感動し山を心の友として積極的に自然に親しむゆとりも技術もありませんでした。自信のないまま低山を歩く二つのグループ即ち青年団山の会と分校山岳部OBが合流して倉渕山岳会が生まれたのです。高崎山岳会の紹介で岳連の仲間入りをさせていただきまし

たが、高崎山岳会を初めとする同会の方々と多くの山行に同行させていた技術の研鑽にはげんだ日々のことを忘れることが出来ません。あれからいつの間にか二十年が過ぎてしまいました。会としてこれと云って目立つ実績もないままにはそそと続いています。しかし少数ながらもいつも山のことを考えている仲間が村のあちこちに居るのです。いまも新装備も持たない仲間ですが高望みせず末長く山と付合って行きたいなどと考えている小さな山岳会です。

会員数(二)名・事務所・群馬郡倉渕村三ノ倉三三倉渕村役場内(電話)二七三七八三一一、代表・浜名一雄(会長)

婚引出物卸価格にて奉仕致します

贈答品・記念品・引出物

株式会社 丸 興

御一報下されば伺います

高崎市上中居 1382

TEL 0273-52-0970(代)

烏川上流 —— 割烹旅館

ニジマス料理・釣堀・バーベキュー・山菜料理

倉渕村権田 027378-2034

池

店の中を小川が流れ、マスが泳いでいます。

女子雪氷クラブ
安中秀子



聳えたつ山々の印象と同じ位に人々との楽しい（今になれば）係わりあいがたくさんあった。

石垣に腰かけた傍に来て、風車

て（人以上だと、つい日本語だけの話が多くて、周囲を見る目が疎かになるから）どん／＼食欲にネパールの人達の中へ入ってけばよかったなどと後悔するが、あの時はあれで精一杯だった。

私達はしばらくの間、ダウラギリ一峰の偵察隊と一緒だった。あの時私は、遠征隊とはこんなにも

手を出した子もいたけれど、話に聞いていた程そこはなかった。もともとそういうことは外国人である私達だって責任の一端を負っているのだ。むやみに物品をばらよその国に行つて、わざわざ日本人で徒党を組まなくてもいいと思ふのだけれど、会えばどうしても、寄り集まりたくなってしまう。今考えると、もっと一人になつ

緊迫感の漂うもののかと感じ、少しが、緩んだ自分が後めたかかった。「いつか私も」輝いた目を見せつけられて、新たな闘志が湧いてきた。

テリツオ湖に行けなかつたことが一番の心残りだ。ひたすら行けると信じて疑わなかつた自分が愚かしくて、重度の自己謙遜にかかった。帰路のマルハでトウモロコシ畑の向こうの白い山を眺めながら考えた。またすぐ来られるだろう。いや、もうここへは足を運ばないかも知れない。今度の山行だって決して楽にやってきたわけではないんだから……などと。

何よりも諦めきれない私の心が
ニルギリ峰を目前に拝して
大きな振幅をくり返す
晴れわたった大空に

無秩序で無計画であつたが、ト
レッキングは全て終了した。うれ
しかったことや、楽しかったこと
に加えて多くのいやな思ひもした
し、決定的な挫折感も味あわせら
れた。でも真剣だった。くり返す
はつた。雪崩が通過し、白煙がお
さまつた時、同行者が近くにいた
はずの広瀬さんがいないので雪崩

山登りをする時だけとは限らな
い。生きていく過程で一番こわい
ことは自分で自分の可能性を限定
してしまふことである。何かをし
ようとする時、大切なのは、まず
あきらめないこと。欲しいものの
一つを手に入れた今、おぼろげな
から感じている次第である。

跡を捜索したが発見できなかった。
同夜、出動命令が発せられ、土合
山の家に集合し、翌十二月十一日
早朝から雪崩跡をスコップで除雪
しながらの捜索をおこなった。十
一時三十分頃、広瀬さんは、事故
現場から約二百m下の雪中（深さ一
m）でリュックを背負つたまま

遭難救助隊（おわり）
まうつぶせになって死んでいるのを発見し、収容した。

六月二十七日、裏紗義山で金根踏さん（三三）が日帰り予定で国民宿舎「裏紗義」を出発したが同夜までに帰らないため松井田署に届出があり六月二十八日、六月二十九日と裏紗義帯を搜索したが六月三十日の搜索の結果十一時四十分頃、桶木次左保の左で遺体となった金根さんを発見。原因は、雨で滑りやすくなった岩場から転落死したものである。この搜索と遺体収容に七名が参加した。

十二月十日、前橋山岳会員の広

頂付近で神奈川の風山岳会所属の女性が滑落したため同方面登山中の沼田山岳会四人（内隊員三名）が救助に向った。同日（一七時四十分頃、沼田山岳会員永井克己さん（二七）は同僚一人とテントで待機し救助に向った四人が帰ってくるため飲料用の雪をとりてテントから出て、突風にあおられ滑落し行方不明になった。現場近くに居合わせた県海外登研会員（中隊員五名）が搜索したが連日の猛吹雪雪のため搜索は難行し、やむなく打ち切られた。（文責 女屋等志）

女屋等志)

岳連会員特別価格にて奉仕させていただきます

ち切られた。
(文責 女屋等志)

救助隊冬季訓練実施される

三月十二日、谷川岳南面ホワイを仕上げることにカパーでトブレスキー場から高倉山へ登る。柴ゾリは、夏冬間なく搬送できる便利さがあるが、トタンと違って軟雪の場合に滑走面から柴の間に雪が入り、付着してしまつて下降しました。市販のプラスチック製のスノーボードは、重量長きの面で事故現場まで運搬するのに大変な労力が必要である。トタン板を利用してのボードは現場で製作できること、材料が安価であることなどから使い捨ててはならない。しかし、長時間に亘る搬送となると破損することがあるが製作段階で堅牢にボード

を仕上げることにカパーでトブレスキー場から高倉山へ登る。柴ゾリは、夏冬間なく搬送できる便利さがあるが、トタンと違って軟雪の場合に滑走面から柴の間に雪が入り、付着してしまつて下降しました。市販のプラスチック製のスノーボードは、重量長きの面で事故現場まで運搬するのに大変な労力が必要である。トタン板を利用してのボードは現場で製作できること、材料が安価であることなどから使い捨ててはならない。しかし、長時間に亘る搬送となると破損することがあるが製作段階で堅牢にボード

(文責 友屋等志)



トタン板による簡易スノーボードの雪上搬送訓練

岳界通信

新しい指導員誕生

先に日本山岳協会へ申請していた五二年度の公認指導員認定申請が、どこおこりなく済み、過日、認定の証書、バッヂ、ワッペンが事務局に届き、該当者に送りました。新しい指導員は次の方々で、全員二種指導員です。

水野金太郎(沼田) 宇田邦司(沼田) 下平昌弘(倉淵) 塚越寛(倉淵) 松田竜彦(前橋) 大橋良雄(境) 茂木貴太郎(登高会) 順不同 御活躍を祈ります。

高体連行事から

冬山指導者講習会 本年は二月一六―一八日の二泊三日で、あやめ平、白尾山方面で行われ、二八名の顧問教師の参加があった。本講習会は、一つは顧問教師の登山技術の向上であり、他の一つは、三月末の生徒対象のリーダー講習会のコース等の下見をかねるといふ目的をもっています。一六日は尾瀬戸倉スキー場で、輪かん、シール付スキーの着脱、歩行訓練、十七日早朝、宿を出発、あやめ・白尾方面に向う。田代原で、本隊、別動隊に分れ、本隊はほとんど夏道を通り、富士見小屋上部へ。別動隊は、田代原から北東にルートを開拓。富士見峠東方のマイクローウェーブ下へとそれぞれ着き、雪洞、イグルー、スキー利用の雪洞などに、それぞれの班毎に工夫を

こらし、雪中露営を体験した。十八日、両隊はマイクローウェーブ付近で合流し、別動隊が記した赤布を頼りに田代原スキー場へと下る。昨年より装備、山用スキーにも工夫がみられ広大な斜面での縦横にすべれる本当のスキーの良さを体験出来た。なお県岳連から多忙な日程をさいて田中成幸氏に講師としてきていただいた。

リダー講習会 三月二六―二九日同じ尾瀬あやめ平・富士見小屋周辺で、教師・生徒一五九名を集めて行われ例年より多人数であったが、整然とした実のある講習会が出来た。生徒はおもに輪かじきの着脱・歩行を訓練したのち富士見小屋に向った。例年より残雪が多く、きびしい自然の中での生活技術の習得、体力の養成、チームワークの養成など成果は大きかったと思う。地図とコンパスを活用しての現在地の確認の練習、小屋内での各種のミーティング、交流会などがより込まれた講習会であった。帰りは、前日の低気圧の通過で、あやめ平下を通るルートが、ブロックの崩壊の可能性があったため、より安全な小屋・マイクローウェーブ・田代原のルートをとおり、全員事故なく帰着した。県岳連から、高橋啓太郎氏を講師として迎え、また高校登山適正化協議会が本講習会の実情を視察、岳連から石井謙一郎・田中成幸氏がメンバーとして加わった。

救助隊結団式

昭和五十三年度の結団式が三月二十八日夜、体協会館で行なわれ、昭和五十三年度隊員紹介隊長・西山千秋、副隊長・中原正喜、相談役・田中成幸、隊員・塩野隆(沼田) 松永幸雄(一) 加藤定男(一) 藤塚満(一) 阿久沢廣(登高会) 丸山正捷(一) 茂木貴太郎(一) 新井邦光(高崎) 女屋等志(ミヤマ) 谷弘行(一) 千木良一郎(一) 森田春樹(一) 阿久沢芳雄(一) 小泉俊夫(一) 都丸和芳(一) 下境和雄(一) 湯沢好夫(一) 石原重喜(一) 峰茂木(一) 白田光雄(藤岡) 松原幸雄(一) 須田久男(桐生) 阿部源(大間々) 福田純一(一) 能美沢栄三(伊勢崎) 仁科雅司(一) 桜井進(太田)

奥利根地域 學術調査報告書 III 巻 発刊

良好な自然環境を有する地域の調査として奥利根地域の學術調査が行なわれてきましたが、その踏査も第一回利根左岸地域、第二回利根源流地域に続いて今回の利根右岸地域の調査を終えてIII巻の発刊の運びとなりました。第一刊から併せてみると、今まで秘境としての科学的調査のメスが入っていた奥利根地域の自然環境に関する全貌がここに解明され、今後貴重な資料になることでしょう。

資金募集

講演と

映画会開かる

去る四月七日、県民会館に於いてK2登頂者広島三郎氏とポストにエベレスト登頂を果たした加藤保

安全パトロールに

参加しよう

毎年の行事となった、五月連休中の安全パトロールが実施されます。谷川岳の危険地域は四月一日から五月七日までの間、登山禁止

原稿募集

送付先 右に同じ。